

























つしん景況レポート

作州地域中小企業景気動向調査 2018. 1~3月期 第25回

【特別調査—経営者の健康管理と事業の継続について】

津山信用金庫は、作州地域内252企業の経営者のご協力のもと、ここに第25回つしん景況レポートを発刊いたします。作州地域の景況感を経営者の皆様方と共有し、皆様方のよきパートナーとして地域の繁栄に努めてまいります。

■概況:1月~3月の業況は晴れ時々曇、4月~6月の見通しも晴れ時々曇■

【地域別天気図】	2017年 1月~3月	2017年 4月~6月	2017年 7月~9月	2017年 10月~12月	今期実績 1月~3月	来期見通し 4月~6月
作州地域全体						
津山鏡野地域						
真庭地域						
美作勝央地域						


●作州地域全体では、今期(2018年1月~3月)の業況判断DIは、前期比15.2ポイント下落し、プラス12.7となり、6期連続のプラス水準となった。来期(2018年4月~6月)は、プラス18.2と業況感が上昇する見通しとなっている。

●地域別には、津山鏡野地域は前期比13.8ポイント下落し、プラス14.5、真庭地域は前期比26.9ポイントと大幅に下落し、プラス2.0、美作勝央地域は前期比6.4ポイント下落し、プラス18.6となった。来期は、津山鏡野地域プラス15.2、真庭地域プラス31.4、美作勝央地域プラス14.0と津山鏡野地域と真庭地域で上昇する見通しとなっている。

業況判断DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い	普通	悪い	DI	良い	普通	悪い
作州地域全体	27.9	34.1	44.4	21.4	12.7	34.5	49.2	16.3	18.2
津山鏡野地域	28.3	33.5	47.5	19.0	14.5	31.0	53.2	15.8	15.2
真庭地域	28.9	27.5	47.1	25.5	2.0	47.1	37.3	15.7	31.4
美作勝央地域	25.0	44.2	30.2	25.6	18.6	32.6	48.8	18.6	14.0

※DIとは、Diffusion Index の略で、「良い(または増加、上昇、楽)」と回答があった企業数の割合(%)から「悪い(または減少、下降、苦しい)」と回答があった企業数の割合(%)を差し引いた値

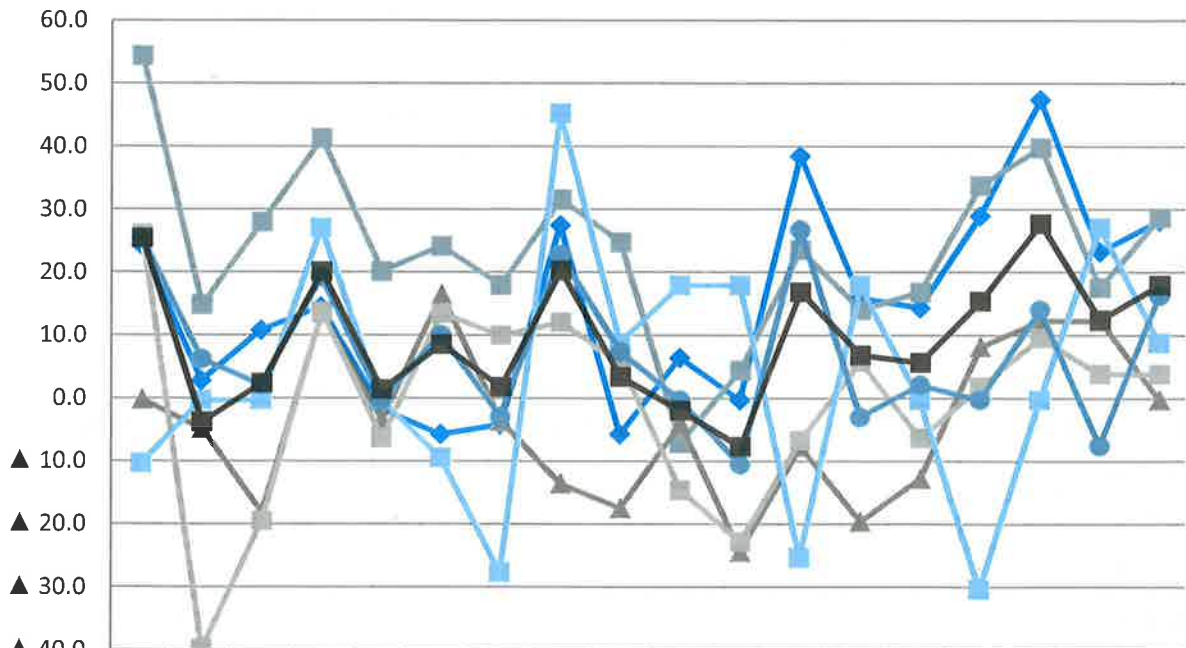
■天気図のご説明■

DI	30以上	10以上~ 30未満	0以上~ 10未満	▲10以上 ~ 0未満	▲30以上 ~ ▲10未満	▲30未満
天気図						

■全業種総合■

【業種別 天気図】	2017年 1月～3月	2017年 4月～6月	2017年 7月～9月	2017年 10月～12月	今期実績 1月～3月	来期見通し 4月～6月
製造業						
建設業						
卸売業						
小売業						
不動産業						
サービス業						
全業種						

業種別業況判断DIの推移



	14/1月 ～3月	4月～ 6月	7月～ 9月	10月～ 12月	15/1月 ～3月	4月～ 6月	7月～ 9月	10月～ 12月	16/1月 ～3月	4月～ 6月	7月～ 9月	10月～ 12月	17/1月 ～3月	4月～ 6月	7月～ 9月	10月～ 12月	18/1月 ～3月	4月～ 6月 見通し
製造業	24.6	3.1	11.1	14.8	▲1.4	▲5.4	▲3.9	27.7	▲5.4	6.7	0.0	38.7	16.2	14.6	29.2	47.6	23.5	28.4
建設業	54.6	15.1	28.2	41.5	20.4	24.4	18.2	31.8	25.0	▲6.8	4.7	23.8	14.3	17.1	34.0	40.0	17.8	28.9
卸売業	0.0	▲4.6	▲17.8	13.8	▲3.2	16.7	▲3.4	▲13.3	▲17.2	▲3.7	▲24.1	▲7.4	▲19.3	▲12.5	8.4	12.5	12.5	0.0
小売業	26.3	▲39.4	▲19.2	14.0	▲6.1	13.7	10.2	12.3	5.8	▲14.3	▲22.5	▲6.4	6.0	▲6.1	2.1	9.8	4.1	4.1
不動産業	▲10.0	0.0	0.0	27.3	0.0	▲9.1	▲27.3	45.4	9.1	18.2	18.2	▲25.0	18.2	0.0	▲30.0	0.0	27.3	9.1
サービス業	25.8	6.5	2.4	19.5	0.0	10.3	▲2.6	23.1	7.7	0.0	▲10.2	27.0	▲2.7	2.4	0.0	14.3	▲7.2	16.6
全業種	25.6	▲3.5	2.6	20.3	1.6	8.8	2.0	20.5	3.6	▲1.7	▲7.4	17.1	7.1	5.9	15.6	27.9	12.7	18.2

全業種	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	27.9	34.1	44.4	21.4	12.7	34.5	49.2	16.3	18.2
売上	38.1	32.9	32.9	34.1	▲ 1.2	40.1	32.9	27.0	13.1
収益	33.0	29.4	38.9	31.7	▲ 2.3	34.9	39.7	25.4	9.5

- 業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)はプラス12.7となり、前期比15.2ポイント下落した。来期(2018年4月～6月)見通しはプラス18.2となっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス1.2となり、前期比39.3ポイントと大幅に下落した。来期見通しはプラス13.1となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス2.3となり、前期比35.3ポイントと大幅に下落した。来期見通しはプラス9.5となっている。

全業種	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	楽・過剰	変らず・適正	苦しい・不足	DI	楽・過剰	変らず・適正
資金繰り	3.1	10.7	80.2	9.1	1.6	9.5	84.5	6.0	3.5
雇用(人手過不足)	▲ 43.5	0.8	54.4	44.8	▲ 44.0	2.0	57.1	40.9	▲ 38.9
設備投資	▲ 11.9	2.5	81.3	16.2	▲ 13.7	2.9	81.3	15.8	▲ 12.9

- 資金繰り判断DIは、今期(2018年1月～3月)はプラス1.6となり、前期比1.5ポイント下落した。来期(2018年4月～6月)見通しはプラス3.5となっている。
- 人手過不足判断DIは、今期はマイナス44.0となり、前期比0.5ポイント下落した。来期見通しはマイナス38.9となっている。今期DIは、前期に記録した過去最低のDIを更に更新する結果となった。
- 設備投資DIは、今期はマイナス13.7となり、前期比1.8ポイント下落した。来期見通しはマイナス12.9となっている。製造業がマイナス16.1、サービス業がマイナス21.4と全業種平均を下回っている。

■ 製造業 ■

製造業全般	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	47.6	38.3	46.9	14.8	23.5	44.4	39.5	16.0	28.4
売上	52.5	28.4	35.8	35.8	▲ 7.4	40.7	35.8	23.5	17.2
収益	41.5	22.2	39.5	38.3	▲ 16.1	34.6	42.0	23.5	11.1

- 製造業の業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)は前期比24.1ポイントと大幅に下落し、プラス23.5となった。来期(2018年4月～6月)見通しはプラス28.4となっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス7.4、来期見通しはプラス17.2となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス16.1、来期見通しはプラス11.1となっている。
- 製造業の内、その他製造業(金属製品製造業、木材・木製品製造業、農林業を除いたもの)の業況判断DIは、今期はプラス25.6、来期見通しはプラス30.2となっている。
- 受注状況は良いが、人手不足で生産が追いつかず受注を断っている状況であるとの声が複数あった。また、産業用ロボットの受注が増加している。鋼材、鉄製品全般、セメント、段ボール、配送費などが上昇している。などの声があった。

製造業のうち： 金属製品製造業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	64.3	46.2	53.8	0.0	46.2	38.5	53.8	7.7	30.8
売上	35.8	15.4	76.9	7.7	7.7	15.4	76.9	7.7	7.7
収益	21.5	0.0	92.3	7.7	▲ 7.7	15.4	76.9	7.7	7.7

●金属製品製造業の業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)は前期比18.1ポイント下落し、プラス46.2となった。来期(2018年4月～6月)見通しはプラス30.8となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス7.7、来期見通しもプラス7.7となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス7.7、来期見通しはプラス7.7となっている。

●金属製品の受注状況は工作機械統計(2018年1月)によると、前年同月比153.3%となっており、「人手不足で受注できない」「過去最高水準の売上となっている」との声が聞かれた。また、ステンレスの原料であるニッケル価格などが上昇しているとの声が多数聞かれた。

製造業のうち: 木材・木製品製造業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	61.5	28.6	42.9	28.6	0.0	35.7	42.9	21.4	14.3
売上	53.8	28.6	14.3	57.1	▲ 28.5	50.0	14.3	35.7	14.3
収益	46.2	21.4	14.3	64.3	▲ 42.9	42.9	28.6	28.6	14.3

●木材・木製品製造業の業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)は前期比61.5ポイントと大幅に下落し、ゼロとなった。来期(2018年4月～6月)見通しはプラス14.3となっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス28.5、来期見通しはプラス14.3となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス42.9、来期見通しはプラス14.3となっている。

●中国で8月から柱や梁などの構造材が使用できるようになり、国産材輸出が更に伸びそうだとの声が複数あった。一方で、経済連携協定(EPA)による段階的な関税の撤廃による影響を心配する声があった。

製造業のうち: 農林業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	0.0	18.2	81.8	0.0	18.2	45.5	45.5	9.1	36.4
売上	36.4	36.4	36.4	27.3	9.1	54.5	36.4	9.1	45.4
収益	18.2	18.2	36.4	45.5	▲ 27.3	45.5	36.4	18.2	27.3

●農林業の業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)は前期比18.2ポイント上昇し、プラス18.2となった。来期(2018年4月～6月)見通しはプラス36.4となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス9.1、来期見通しはプラス45.4となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス27.3、来期見通しはプラス27.3となっている。

●記録的な寒波により葉物野菜の出荷量が減少しているとの声が多くあった。林業では、人手不足や外注先が減少しているとの声が複数あった。

■建設業■

建設業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	40.0	35.6	46.7	17.8	17.8	40.0	48.9	11.1	28.9
売上	24.5	28.9	42.2	28.9	0.0	44.4	35.6	20.0	24.4
収益	26.7	28.9	53.3	17.8	11.1	33.3	53.3	13.3	20.0

●建設業の業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)は前期比22.2ポイントと大幅に下落し、プラス17.8となった。来期(2018年4月～6月)見通しはプラス28.9となっている。

●売上判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス24.4となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス11.1、来期見通しはプラス20.0となっている。

●住宅建設を除いた建設業の業況判断DIは、今期はプラス20.7、来期見通しはプラス31.0となっている。

●メガソーラー設置工事やホテル新築工事などで受注量が増加しているとの声が複数あった。一方で、建築資材や運賃等の経費が増加しているとの声が複数あった。

建設業のうち: 住宅建設	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	25.0	31.3	50.0	18.8	12.5	31.3	62.5	6.3	25.0
売上	18.8	31.3	37.5	31.3	0.0	50.0	37.5	12.5	37.5
収益	18.7	25.0	62.5	12.5	12.5	50.0	37.5	12.5	37.5

●住宅建設業者の業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)は前期比12.5ポイント下落し、プラス12.5となった。来期(2018年4月～6月)の見通しはプラス25.0となっている。

●売上判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス37.5となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス12.5、来期見通しはプラス37.5となっている。

●記録的な寒波による水道管破裂復旧工事などが増加した。合板などの材料価格が値上がりしており収益が悪化しているとの声があった。

■卸売業■

卸売業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	12.5	33.3	45.8	20.8	12.5	16.7	66.7	16.7	0.0
売上	41.7	33.3	33.3	33.3	0.0	58.3	25.0	16.7	41.6
収益	50.0	33.3	41.7	25.0	8.3	54.2	29.2	16.7	37.5

●卸売業の業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)は前期と変わらず、プラス12.5となった。来期(2018年4月～6月)見通しはゼロとなっている。

●売上判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス41.6となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス8.3、来期見通しはプラス37.5となっている。

●記録的な寒波による客数減少や葉物野菜など農作物の不作の影響があったとの声があった。飲料卸売業からは、来期は平年より気温が高くなる予想なので売行きが良くなるとの声があった。

■小売業■

小売業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	9.8	34.7	34.7	30.6	4.1	24.5	55.1	20.4	4.1
売上	35.3	38.8	26.5	34.7	4.1	26.5	28.6	44.9	▲ 18.4
収益	31.4	34.7	34.7	30.6	4.1	28.6	28.6	42.9	▲ 14.3

●小売業の業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)は前期比5.7ポイント下落し、プラス4.1となった。来期(2018年4月～6月)見通しもプラス4.1となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス4.1、来期見通しはマイナス18.4となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス4.1、来期見通しはマイナス14.3となっている。

●記録的な寒波によりガス・灯油などの燃料売上が増加したとの声が多くあった。根強い消費者の節約志向に加え、商品の品揃えや価格の優位性さらには品質やデザイン(高級感)が向上している大型店やネット販売業者を交えた競争が激化しているとの声が複数あった。

小売業のうち: 自動車小売業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	▲ 21.5	35.7	28.6	35.7	0.0	21.4	42.9	35.7	▲ 14.3
売上	▲ 7.1	50.0	14.3	35.7	14.3	28.6	7.1	64.3	▲ 35.7
収益	0.0	42.9	21.4	35.7	7.2	28.6	7.1	64.3	▲ 35.7

●自動車小売業の業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)は前期比21.5ポイントと大幅に上昇し、ゼロとなった。来期(2018年4月～6月)見通しはマイナス14.3となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス14.3、来期見通しはマイナス35.7となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス7.2、来期見通しはマイナス35.7となっている。

●新車販売に例年のような活気が見られなくなったとの声が多くあった。一方で、中古トラックの販売が好調であるとの声があった。

■不動産業■

不動産業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少
業況	0.0	45.5	36.4	18.2	27.3	27.3	54.5	18.2	9.1
売上	0.0	54.5	36.4	9.1	45.4	18.2	45.5	36.4	▲ 18.2
収益	▲ 9.1	45.5	45.5	9.1	36.4	18.2	45.5	36.4	▲ 18.2

●不動産業の業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)は前期比27.3ポイントと大幅に上昇し、プラス27.3となった。来期(2018年4月～6月)見通しはプラス9.1となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス45.4、来期見通しはマイナス18.2となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス36.4、来期見通しはマイナス18.2となっている。

●賃貸事業は人事異動時期で多忙となる時期であるが、例年に比べて問い合わせが少ない。トラック運転手の人手不足が深刻化しており、業界団体の全日本トラック協会が転居時期をずらす「分散引越」への協力を呼び掛けている影響も考えられるとの声があった。

■サービス業■

サービス業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少
業況	14.3	21.4	50.0	28.6	▲ 7.2	33.3	50.0	16.7	16.6
売上	35.7	33.3	23.8	42.9	▲ 9.6	45.2	31.0	23.8	21.4
収益	26.2	31.0	23.8	45.2	▲ 14.2	38.1	38.1	23.8	14.3

●サービス業の業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)は前期比21.5ポイントと大幅に下落し、マイナス7.2となった。来期(2018年4月～6月)見通しはプラス16.6となっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス9.6、来期見通しはプラス21.4となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス14.2、来期見通しはプラス14.3となっている。

●記録的な寒波により飲食・宿泊業を中心に客足の伸び悩みがあったほか、人件費、燃料費上昇分の価格転嫁に難航しているとの声が聞かれ、売上・収益ともに悪化した。

サービス業のうち： 医療福祉業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分		DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少
業況	18.2	27.3	54.5	18.2	9.1	18.2	63.6	18.2	0.0
売上	36.4	27.3	45.5	27.3	0.0	27.3	54.5	18.2	9.1
収益	27.3	27.3	27.3	45.5	▲ 18.2	9.1	72.7	18.2	▲ 9.1

●医療福祉業の業況判断DIは、今期(2018年1月～3月)は前期比9.1ポイント下落し、プラス9.1となった。来期(2018年4月～6月)見通しはゼロとなっている。

●売上判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス9.1となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス18.2、来期見通しはマイナス9.1となっている。

●診療報酬・介護報酬改定による影響は想定範囲内であるとの声が多くあった。中には、訪問診療などで地域とのかかわりを強めたことでプラスにできたとの声が聞かれた。

■ 昨年同期比較売上高・収益 ■

業種別	増加	変わらず	減少	DI
製造業	38.3	32.1	29.6	8.7
建設業	40.0	40.0	20.0	20.0
卸売業	29.2	50.0	20.8	8.4
小売業	36.7	42.9	20.4	16.3
不動産業	18.2	63.6	18.2	0.0
サービス業	28.6	33.3	38.1	▲ 9.5
総計	34.9	38.9	26.2	8.7

業種別	増加	変わらず	減少	DI
製造業	28.4	40.7	30.9	▲ 2.5
建設業	40.0	42.2	17.8	22.2
卸売業	33.3	45.8	20.8	12.5
小売業	28.6	53.1	18.4	10.2
不動産業	18.2	54.5	27.3	▲ 9.1
サービス業	31.0	33.3	35.7	▲ 4.7
総計	31.0	43.3	25.8	5.2

業種別	増加	変わらず	減少	DI
卸売業	25.0	66.7	8.3	16.7
小売業	20.4	75.5	4.1	16.3
総計	21.9	72.6	5.5	16.4

① 昨年同期(2017年1月～3月)比較売上高DIは、全業種ではプラス8.7となった。
 ② 昨年同期比較収益DIは、製造業、不動産業、サービス業でマイナスとなったが、全業種ではプラス5.2となった。
 ③ 昨年同期比較販売価格DIは、卸売業プラス16.7、小売業プラス16.3となった。

■ 販売価格 ■

販売価格DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	上昇	変わらず	下降	DI	上昇	変わらず	下降
製造業	18.3	17.3	82.7	0.0	17.3	14.8	77.8	7.4	7.4
建設業	4.5	11.1	80.0	8.9	2.2	6.7	88.9	4.4	2.3
卸売業	16.7	20.8	79.2	0.0	20.8	20.8	79.2	0.0	20.8
小売業	15.7	14.3	79.6	6.1	8.2	2.0	75.5	22.4	▲ 20.4
不動産業	▲ 9.1	9.1	72.7	18.2	▲ 9.1	0.0	81.8	18.2	▲ 18.2
サービス業	14.3	7.1	88.1	4.8	2.3	31.0	64.3	4.8	26.2
総計	13.3	13.9	81.7	4.4	9.5	13.5	77.4	9.1	4.4

● 今期の販売価格DIは、全業種でプラス9.5となり、平成26年1～3月期(プラス10.1)に近い水準となった。来期見通しは、全業種でプラス4.4となっている。卸売業では、2期連続で販売価格が「やや下降」「下降」と回答する企業はなかった。

■ 仕入価格 ■

仕入価格DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	上昇	変わらず	下降	DI	上昇	変わらず	下降
製造業	30.5	35.8	63.0	1.2	34.6	24.7	69.1	6.2	18.5
建設業	15.6	20.0	80.0	0.0	20.0	22.2	77.8	0.0	22.2
卸売業	20.8	16.7	83.3	0.0	16.7	25.0	75.0	0.0	25.0
小売業	21.5	22.4	69.4	8.2	14.2	6.1	73.5	20.4	▲ 14.3
不動産業	▲ 9.1	0.0	81.8	18.2	▲ 18.2	0.0	90.9	9.1	▲ 9.1
サービス業	23.8	19.0	78.6	2.4	16.6	19.0	76.2	4.8	14.2
総計	22.3	24.2	72.6	3.2	21.0	18.7	74.2	7.1	11.6

● 今期の仕入価格DIは、全業種でプラス21.0となり、平成27年4～6月期以来の20ポイントを上回る水準となった。金属製品製造業がプラス69.2、木材・木製品製造業がプラス42.9と大幅に上昇している。来期見通しは、全業種でプラス11.6となっている。

■在庫■

在庫DI	前期	今期実績				来期見通し			
		業種別	DI	過剰傾向	適正	不足傾向	DI	過剰傾向	適正
製造業	1.2	8.6	79.0	12.3	▲ 3.7	4.9	91.4	3.7	1.2
建設業	0.0	0.0	97.8	2.2	▲ 2.2	0.0	100.0	0.0	0.0
卸売業	4.2	8.3	91.7	0.0	8.3	4.2	95.8	0.0	4.2
小売業	15.6	12.2	79.6	8.2	4.0	10.2	83.7	6.1	4.1
不動産業	▲ 45.4	0.0	45.5	54.5	▲ 54.5	0.0	63.6	36.4	▲ 36.4
総計	2.4	7.1	82.9	10.0	▲ 2.9	4.8	90.5	4.8	0.0

●在庫DIは、今期は全業種で8割超が適正と回答し、全業種でマイナス2.9となった。来期見通しは、全業種で約9割が適正と回答し、全業種でゼロとなっている。

●不動産業では、購入希望地域の土地物件が不足しており、過去最低のマイナス54.5となっている。

■受注残■

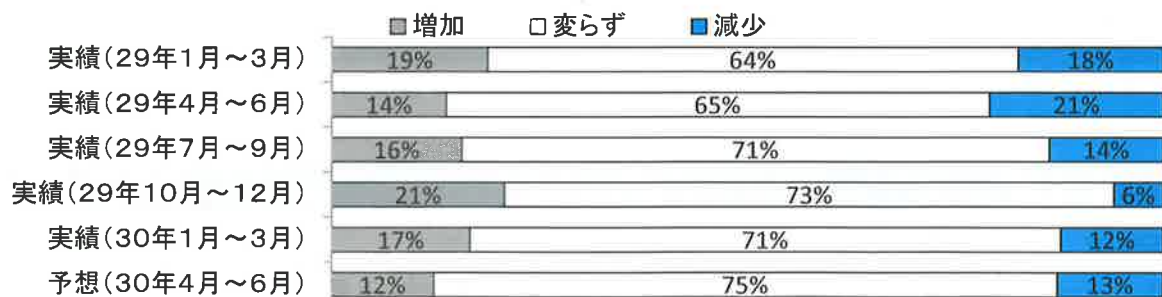
受注残DI	前期	今期実績				来期見通し			
		業種別	DI	増加	変わらず	減少	DI	増加	変わらず
製造業	45.2	23.5	55.6	21.0	2.5	28.4	51.9	19.8	8.6
建設業	33.3	28.9	53.3	17.8	11.1	42.2	40.0	17.8	24.4
総計	41.0	25.4	54.8	19.8	5.6	33.3	47.6	19.0	14.3

●製造業の受注残DIは、今期は前期比42.7ポイントと大幅に下落し、プラス2.5となった。来期見通しは、プラス8.6となっている。

●建設業の受注残DIは、今期は前期比22.2ポイントと大幅に下落し、プラス11.1となった。来期見通しは、プラス24.4となっている。

■雇用面の動き■

前期比残業時間



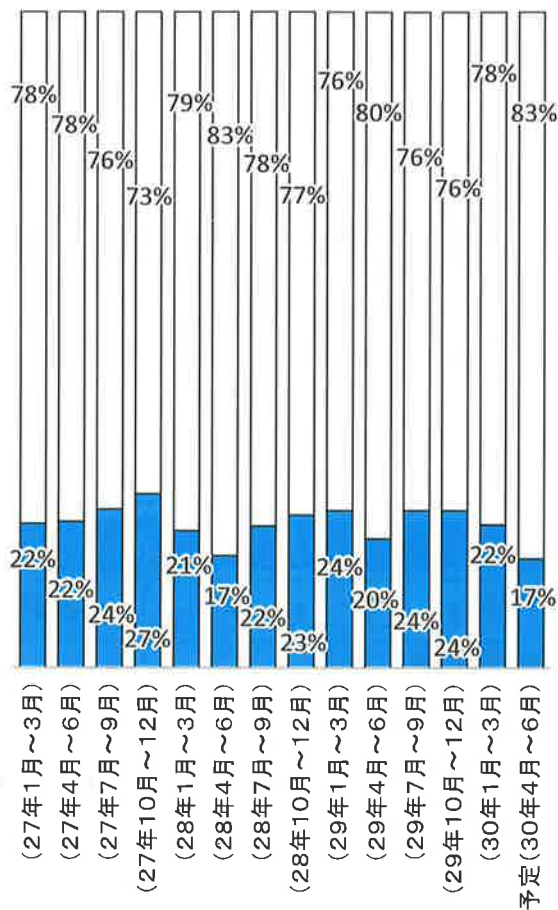
人手実績と予想



借入金の動き・難易度

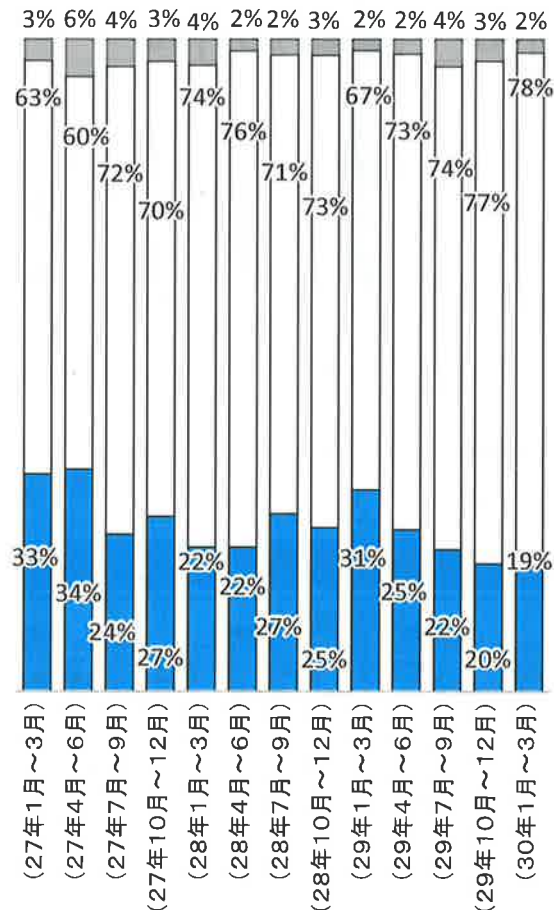
借入金の動き

■ 借入した(予定あり) □ 借入しない(予定なし)



民間金融機関からの借入金難易度

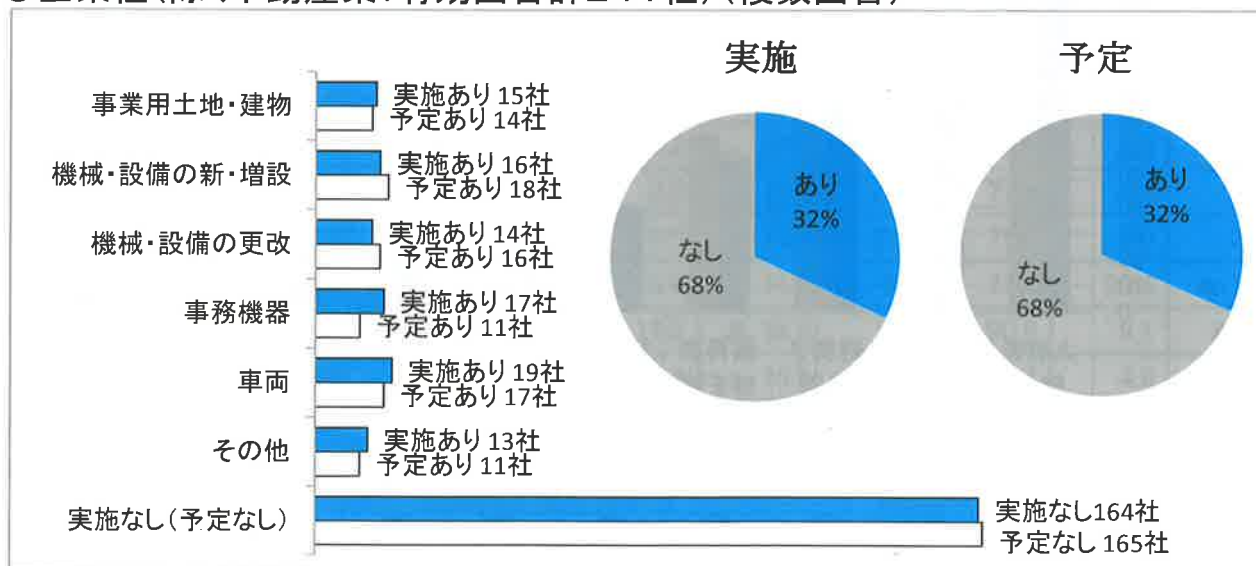
■ 容易 □ 変わらない □ 難しい



● 2016年1月にマイナス金利政策が導入されたが、借入をした企業の割合は、今期(30年1月～3月)22%と依然として低い水準となっている。また、借入の難易度は、『容易』と回答した企業の割合が前期比1%下落し、19%となり、『難しい』は前期比1%下落し、2%となっている。

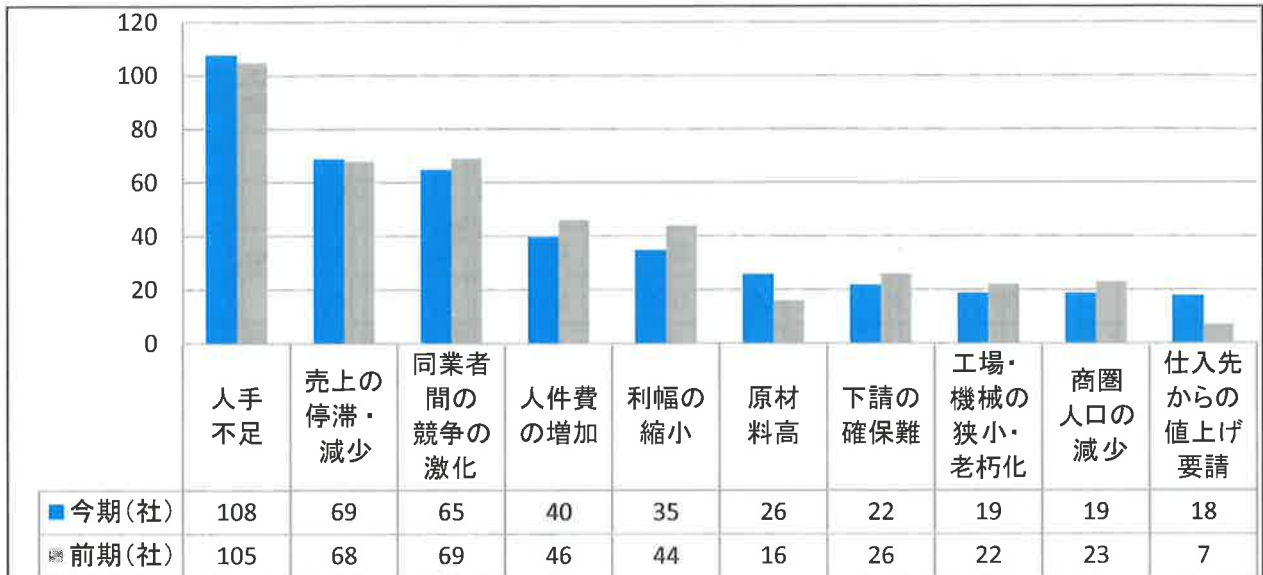
設備投資の実施(30年1月～3月)と予定(30年4月～6月)

● 全業種(除く不動産業:有効回答計241社)(複数回答)



■ 経営上の問題点 ■

● 全業種(複数回答)

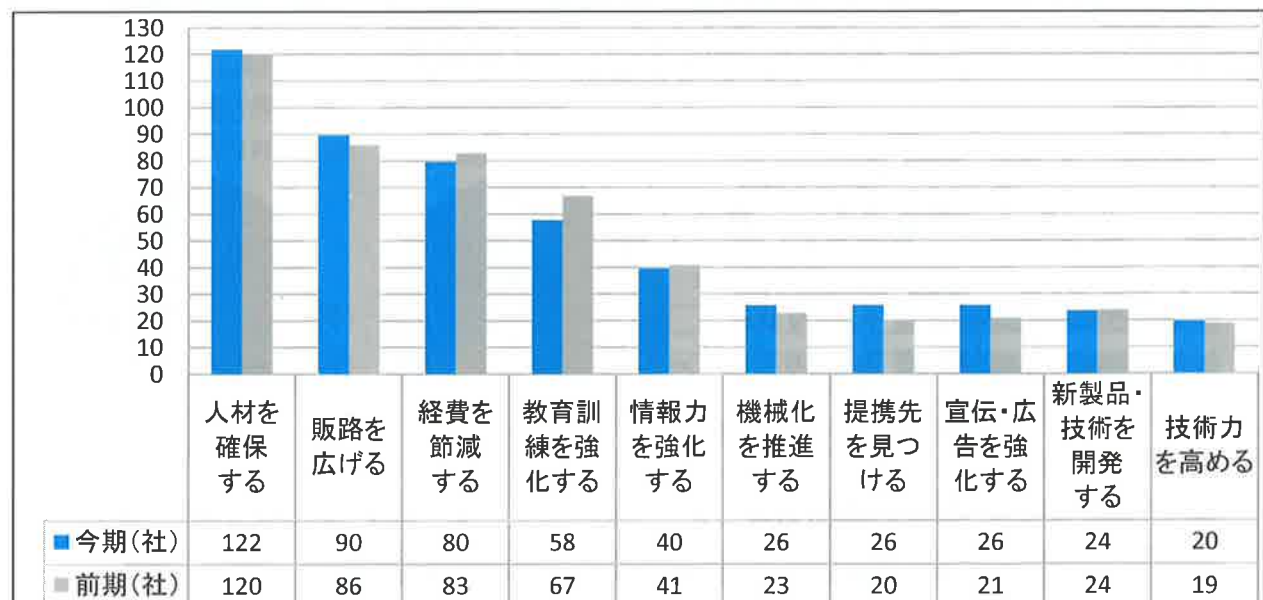


● 業種別(複数回答)

	製造業	%	建設業	%	卸売業	%	小売業	%	不動産業	%	サービス業	%
1位	人手不足	19.7	人手不足	26.0	同業者間の競争の激化	16.4	同業者間の競争の激化	16.0	商品物件の不足	30.4	人手不足	24.5
2位	原材料高	13.5	同業者間の競争の激化	12.0	売上の停滞・減少	14.5	売上の停滞・減少	13.4	利幅の縮小	21.7	人件費の増加	13.3
3位	売上の停滞・減少	13.0	下請の確保難	11.0	利幅の縮小	12.7	人手不足	11.8	売上の停滞・減少	13.0	売上の停滞・減少	10.2
4位	工場・機械の狭小・老朽化	9.8	材料価格の上昇	9.0	人手不足	7.3	商圏人口の減少	11.8	人手不足	8.7	同業者間の競争の激化	10.2
5位	生産能力の不足	7.3	売上の停滞・減少	7.0	天候の不順	7.3	利幅の縮小	9.2	同業者間の競争の激化	8.7	技術力の不足	6.1

■ 当面の重点経営施策 ■

● 全業種(複数回答)



●業種別(複数回答)

	製造業	%	建設業	%	卸売業	%	小売業	%	不動産業	%	サービス業	%
1位	人材を確保する	19.8	人材を確保する	25.4	販路を広げる	25.9	人材を確保する	16.7	情報力を強化する	26.9	人材を確保する	20.0
2位	販路を広げる	17.4	技術力を高める	16.9	経費を節減する	15.5	経費を節減する	13.3	宣伝・広告を強化する	23.1	販路を広げる	17.3
3位	経費を節減する	14.0	販路を広げる	15.3	人材を確保する	12.1	教育訓練を強化する	13.3	不動産の有効活用を図る	15.4	教育訓練を強化する	12.7
4位	新製品・技術を開発する	11.6	経費を節減する	12.7	情報力を強化する	10.3	品揃えを改善する	10.8	新しい事業を始める	11.5	経費を節減する	10.0
5位	機械化を推進する	9.2	情報力を強化する	11.0	提携先を見つける	8.6	宣伝・広告を強化する	9.2	販路を広げる	7.7	技術力を強化する	9.1

■調査員の調査コメントから■

○今期の業況判断D Iはプラス12.7と前回調査時の見通しプラス20.8を下回ったが、1～3月期比較では、平成26年1～3月期のプラス25.6に次ぐ過去2番目に高い水準となっている。業種別には、サービス業がマイナス水準となったが、他の業種はプラス水準となっている。また、2期連続でプラス水準となっていた売上高判断D Iと収益判断D Iは、マイナス水準となっている。

○今期は記録的な寒波による影響に加え、深刻な人手不足の継続、鉄鋼、建築資材や農産物などの仕入価格および燃料費や運賃などの経費の上昇が、広く業況の押し下げ要因となった。他方、電子部品や産業用機械、自動車関連の生産、メガソーラー設置工事、設備投資は引き続き堅調に推移している。また、ものづくり補助金の申請を準備している企業数も多くなっている。

○今期の業況判断D Iが前回調査時の業況判断D I見通しと大幅にかい離した木材・木製品製造業と住宅建築は、平成30年1月の住宅着工戸数が前年同月比で13.2%減にみられるように木材の荷動きが悪かったこと、人手不足、外注先不足による工事の遅れや原材料の高騰で採算が悪化しているとの声が複数あった。

○雇用判断D Iは、初めてマイナス40を超え、過去最低を更新した前回調査時よりも更に悪化し、マイナス44.0となった。業種別には、製造業がマイナス42.0、サービス業がマイナス64.3と過去最低を記録した。建設業とサービス業で「過剰」と回答した先は1社もなく、深刻な人手不足が継続している。

○ハローワークからの応募がないので、知人や従業員からの紹介を優先して採用したいとの声が複数あった。また、シルバー人材雇用、外国人雇用やロボットの導入も検討していきたいとの声も複数あった。

■調査要領■

1. 調査対象

当金庫営業エリア内の中小企業

2. 調査時期

2018年2月19日～3月7日

3. 調査方法

当金庫職員による訪問聞き取り調査

4. 分析方法

D Iを中心に分析

5. 季節変動について

■調査対象■

地区別	企業数	比率	従業員規模別	企業数	比率
津山鏡野地域	158	62.7%	1～4人	41	16.3%
真庭地域	51	20.2%	5～9人	69	27.4%
美作勝央地域	43	17.1%	10～19人	55	21.8%
総計	252	100.0%	20～29人	31	12.3%
業種別	企業数	比率	30～39人	16	6.3%
製造業	81	32.1%	40～49人	15	6.0%
建設業	45	17.9%	50～99人	10	4.0%
卸売業	24	9.5%	100～199人	10	4.0%
小売業	49	19.4%	200～300人	4	1.6%
不動産業	11	4.4%	301人以上	1	0.4%
サービス業	42	16.7%	総計	252	100.0%
総計	252	100.0%			

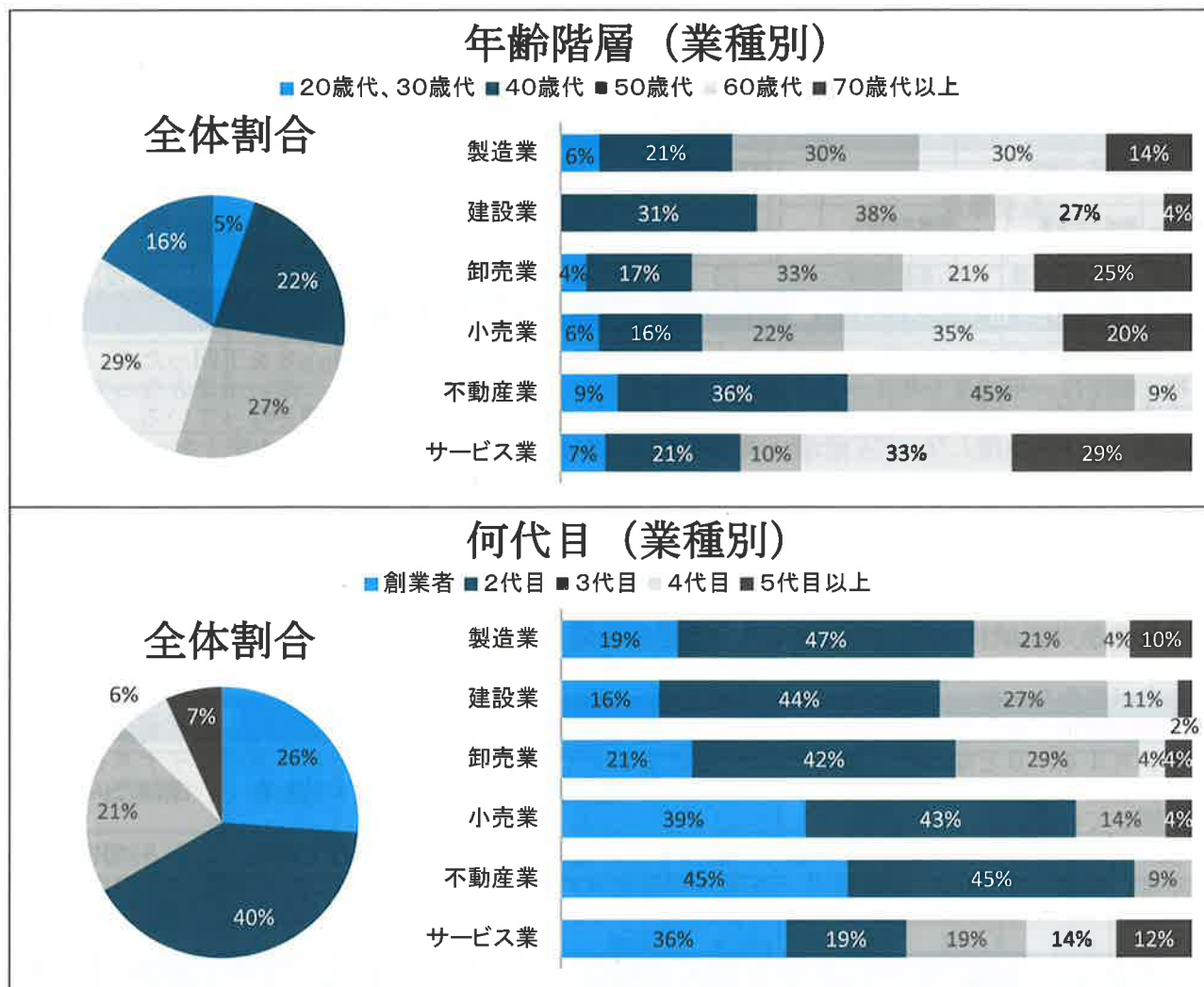
業況判断D Iは、毎年1～3月期に低下し、4～6月期に上昇するという季節的な変動(季節変動)がありますが、当金庫の分析においては季節変動の調整(季節調整)は行っておりません。

※ 本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。

また、掲載資料は正確性・安全性を保証するものではありません。

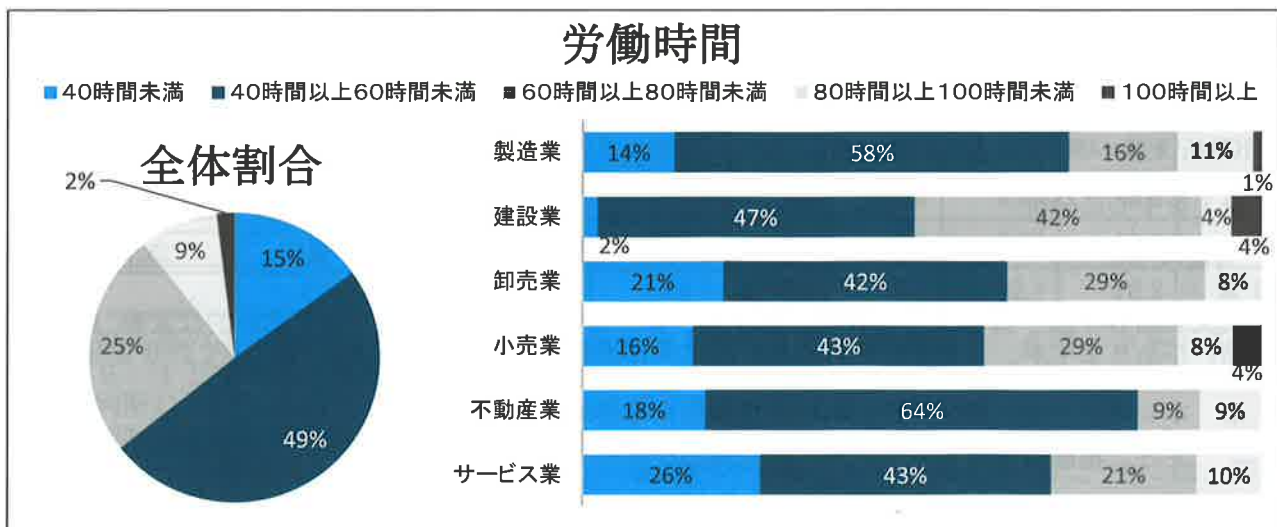
☆☆☆ 特別調査 ☆☆☆
特別調査-「経営者の健康管理と事業の継続について」

問1. 社長（代表者）の年齢階層はいずれに属しますか。また、現在の社長は何代目ですか。



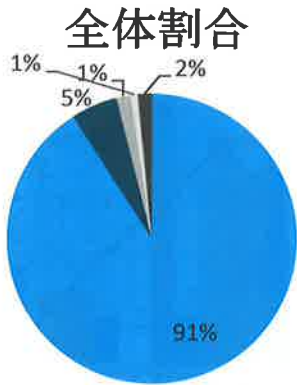
- 「60歳代」が、29%と最も多くなっている。次いで「50歳代」が、27%と続いている。
- 「2代目」が、40%と最も多くなっている。次いで「創業者」が、26%と続いている。

問2. 健全な経営のためには、社長の健康が大切です。社長の先月の労働時間（経営に費やした時間）は、1週間あたりにするとどの程度ですか。また、健康診断をどの程度の頻度で受けていますか。



健康診断受診回数

■ 1年に1回以上 ■ 2~4年に1回 ■ 5~10年に1回 ■ 10年以上受けていない ■ 受けたことがない

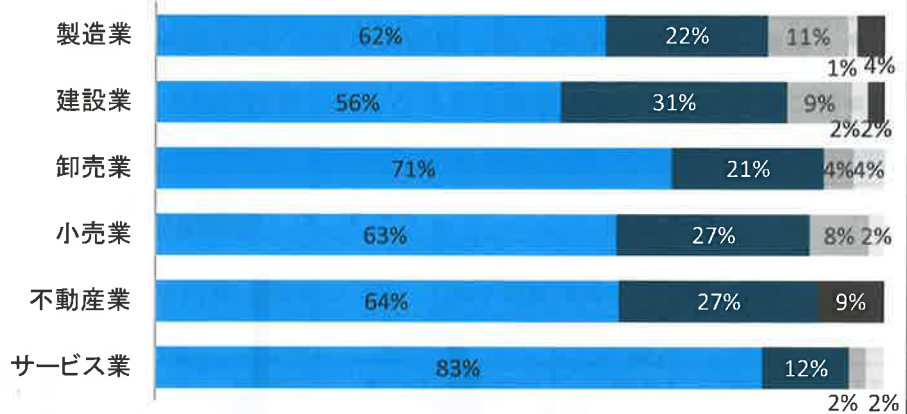
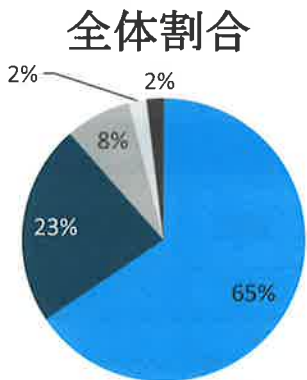


- 「40時間以上60時間未満」が49%と約半数を占めている。
- 「1年に1回以上」は健康診断を受診しているとの回答が91%であった。

問3. 仮に今、社長の方がケガや病気等で1か月間の休養を余儀なくされたとします。貴社では、どの程度の業務継続が可能ですか。また、休養中に特に心配される貴社の機能の低下や悪化はどのようなものですか。

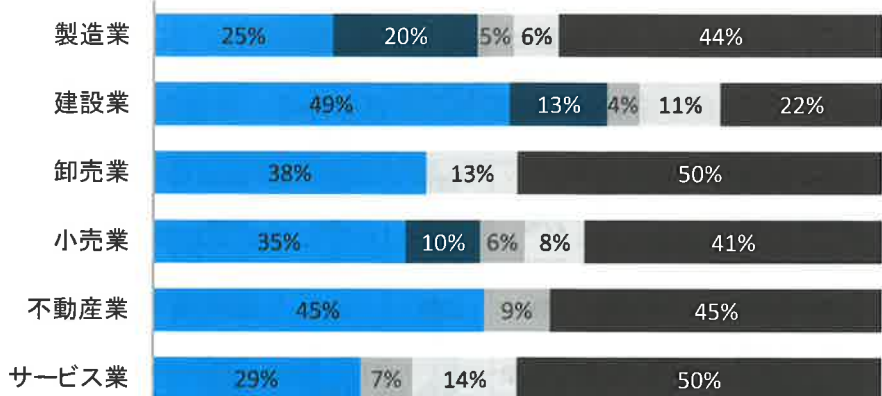
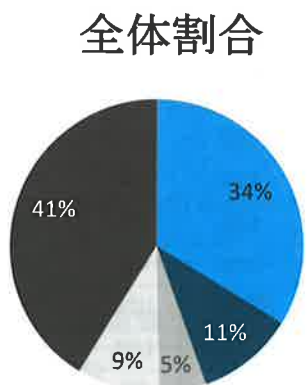
業務継続

■ 通常通りの業務継続が可能 ■ 主要業務に限り継続可能 ■ 大幅に業務を縮小した上で継続可能
 ■ 業務継続は不可能(休業、廃業) ■ わからない



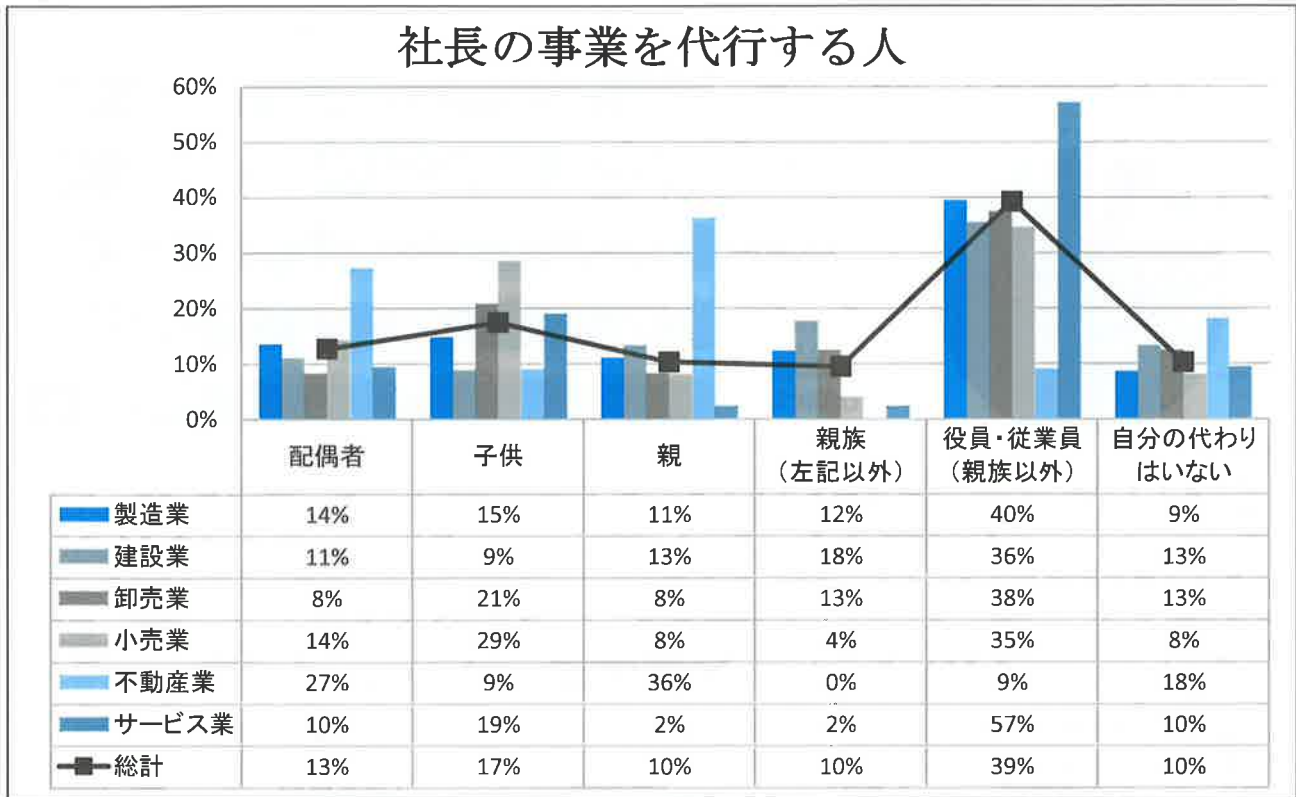
心配される機能

■ 営業機能や販売機能の低下 ■ 生産機能や仕入機能の低下 ■ 資金繰りの悪化 ■ わからない ■ 心配していない



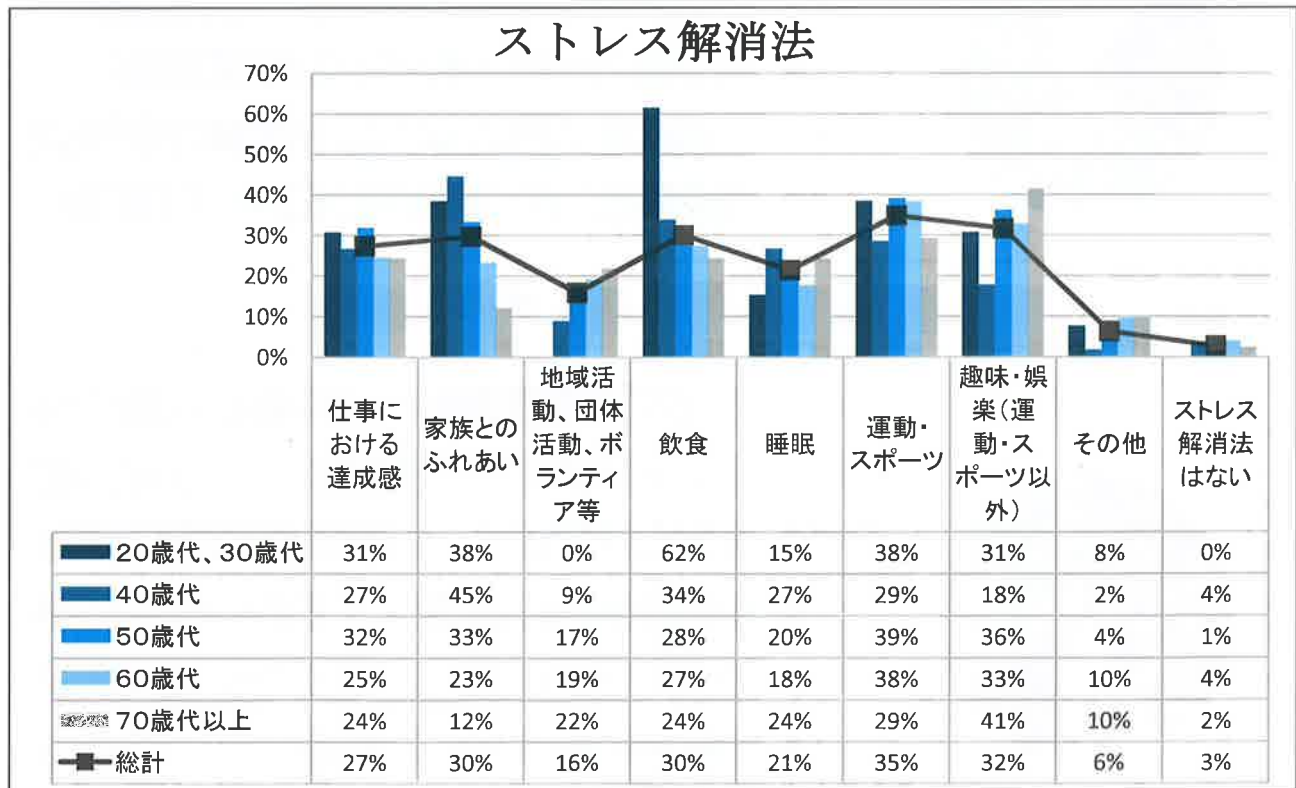
- 「通常通りの業務継続が可能」が、65%と最も多くなっている。次いで、「主要業務に限り継続可能」が、23%と続いている。
- 「心配していない」が、41%と最も多くなっている。次いで、「営業機能や販売機能の低下」が、34%と続いている。

問4. 問3に続いて、社長の方がケガや病気等で1か月間の休養を余儀なくされたとします。貴社には、休養中の社長の事業を代行できる人がいますか。



- 「親族（配偶者、子供、親、親族の合計）」が50%、「役員・従業員（親族以外）」が39%となっている。一方で、「自分の代わりはいない」が10%となっている。
- 常に社長がいなくても業務がまわるように役割分担をしているとの声が聞かれた。

問5. 社長のストレス解消法は何ですか。(複数回答)



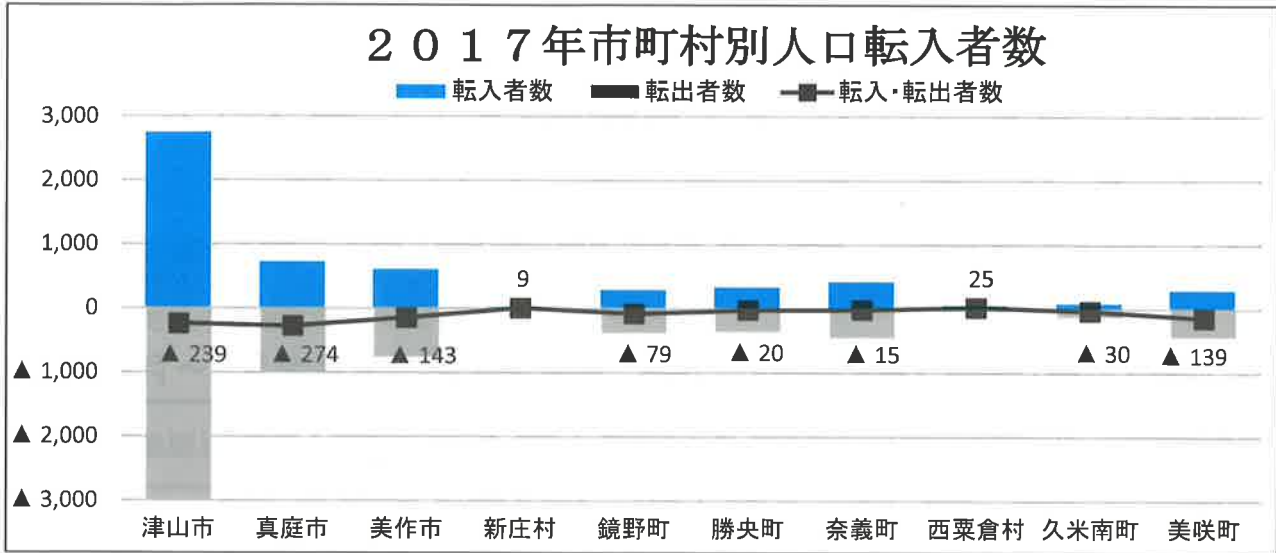
- 20歳代、30歳代で「飲食」が、40歳代で「家族とのふれあい」が、50歳代と60歳代で「運動・スポーツ」が、70歳代以上で「趣味・娯楽」がそれぞれ多くなっている。
- 「運動・スポーツ」では、ゴルフやウォーキングが、「趣味・娯楽」では、釣りやラジコンとの声があった。

(参考) 2017年における日本人の市町村間人口移動者数

住民基本台帳人口移動岡山県2017年を基に地域創生部作成

○市町村別人口移動者数

(単位：人)



○市町村別転入転出者数

(単位：人)

○年齢階層別転入転出者数

(単位：人)

市町村名	転入者数	転出者数	転入・転出者数	転入・転出者数	0~19歳	20~59歳	60歳以上	合計
津山市	2,748	▲2,987	▲239	▲134	▲140	35	▲239	
真庭市	728	▲1,002	▲274	▲16	▲261	3	▲274	
美作市	614	▲757	▲143	▲41	▲79	▲23	▲143	
新庄村	25	▲16	9	1	7	1	9	
鏡野町	297	▲376	▲79	▲15	▲67	3	▲79	
勝央町	336	▲356	▲20	3	▲20	▲3	▲20	
奈義町	429	▲444	▲15	44	▲53	▲6	▲15	
西粟倉村	58	▲33	25	9	15	1	25	
久米南町	90	▲120	▲30	3	▲33	0	▲30	
美咲町	294	▲433	▲139	▲16	▲95	▲28	▲139	
作州地域合計(1)	5,619	▲6,524	▲905	▲162	▲726	▲17	▲905	
岡山県(2)	60,137	▲62,319	▲2,182	▲201	▲2,225	244	▲2,182	
割合：(1)/(2)	9.3%	10.5%	41.5%					

●作州地域合計の転出超過数は905人と岡山県全体(2,182人)の41.5%を占めている。新庄村と西粟倉村で転入超過となっているが、他の市町は全て転出超過となっている。

●年齢階層別には0~59歳の層で転出超過(2,426人)となるも、60歳以上では転入超過(244人)となっている。

○津山市等への転入者の転出県ランキング(上位10位)

(単位：人)

津山市への転入			作州地域への転入			岡山県への転入		
転出県	人数	割合	転出県	人数	割合	転出県	人数	割合
1 岡山県	1,421	52%	1 岡山県	3,054	54%	1 岡山県	32,583	54%
2 大阪府	179	7%	2 大阪府	368	7%	2 広島県	4,610	8%
3 兵庫県	153	6%	3 兵庫県	321	6%	3 大阪府	2,830	5%
4 広島県	125	5%	4 広島県	225	4%	4 兵庫県	2,632	4%
5 鳥取県	99	4%	5 鳥取県	187	3%	5 東京都	2,077	3%
6 東京都	77	3%	6 東京都	162	3%	6 香川県	1,441	2%
7 鳥根県	71	3%	7 香川県	100	2%	7 福岡県	1,036	2%
8 福岡県	52	2%	8 鳥根県	98	2%	8 愛媛県	1,016	2%
9 高知県	47	2%	9 京都府	89	2%	9 神奈川県	984	2%
10 京都府	39	1%	10 愛知県	81	1%	10 愛知県	899	1%

●津山市、作州地域、岡山県への転入は、岡山県内での移動が多く、半数以上を占めている。

●津山市と作州地域では、大阪府、兵庫県、広島県、鳥取県からの転入者が多くなっている。

作州地域の活性化応援信用金庫



岡山県津山市山下30-15
0868-22-4121
地域創生部
(担当：杉山、岡部)